

令和7年度 学校評価（自己評価結果）

1. 本荘中央こども園の教育・保育目標

元気なこども 仲の良いこども 考えるこども

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

本年度は、認定こども園としての運営体制を整え、教育・保育の一体的な実践の充実を図る。全職員で共通理解を深め、子ども一人一人の発達に応じた質の高い教育・保育を推進する。また、保護者との丁寧な対話と情報共有を通して信頼関係の構築に努める。あわせて、地域との連携を深め、開かれた園づくりの基盤を築く。

評価項目	取組状況
内面理解や保育を見取る必要性や具体的な方法を、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をもとに全職員で共通理解している	・公開保育を通して「子どもの内面をどう捉えるか」を全職員で話し合ったことで見取りの視点が統一された。また年度末には1年の育ちを幼児期の終わりまで育てほしい10の姿に照らし合わせ職員間で共有を図る。
一緒に遊んだり、一人一人の遊びを見取ったりして、園児の思いを共有したり気付きを認めたり、遊びが広がるように環境を再構成したりする保育を行っている	・年間指導計画のねらい、環境構成、内容を定期的に見直しを行う。また、園児のつぶやきや行動の背景を捉え環境の再構成を行う。
週案等で、内面理解と保育の見取りについての自己評価を取り入れ、改善策を見出している。	・週案の振り返り欄において、単なる活動の評価にとどまらず、園児の姿から読み取れる意図や内面理解をを記述する。
年齢別目標、クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定されているか。乳幼児の実態に即して設定されているか。	
園の重点的な取り組みや園目標の達成を検証できる適切な評価項目であったか	・本年度設定した評価項目は、園目標「元気な子ども仲の良い子ども考える子ども」を具現化する内容であり、職員が日々の保育で意識すべき指針として機能した。一部の評価項目において、抽象的で判断に迷う箇所が見受けられたため、次年度の評価項目構築の際の改善点とする。
協同性を発揮し、自己評価できる体制づくりと役割りであったか	・3歳以上児、未満児会議やクラス内での話し合いを通じて個人の気付きを共通理解し、尊重し合うことで、園全体のチームワークの向上と多角的な視点による保育の質の検証ができた。
全職員が評価計画に基づき、年に2回の自己評価を実施し、改善に結び付けたか	・評価計画に基づき、全職員が共同して自己評価に取り組むことができた。特に園児の内面の読み取りを行い環境の再構成を行ったことは、保育の質の向上に大きく寄与した。
園運営のビジョンや重点目標等が示され、達成に向けた手立てを見出し、個々の職員が運営に十分参画しているか	・園の目指すビジョンや年度毎の重点目標が明確に示されたことで、職員一人一人が自分の役割りを再認識し主体的に動く土壌が整った。 ・会議や打合せは参加した職員だけでなく、非常勤職員も交えて行うことで、指示待ちにならず主体的に保育にあたることのできるため、次年度は更なる改善が必要。
園運営を円滑に進めるための職員会議や担当者の打合せは、適切に行われているか	
ヒヤリハット事例の検討に寄り、園内の多様な危険を想定して、危機管理能力を向上させているか	・火災・震災に対する避難訓練の実施及び防犯・防火教室の実施し、園児の安心、安全確保のために取り組んだ。 ・感染症やアレルギーに関する園内外の研修に参加することにより、全職員で危機管理意識を共有できた。今年度は園内において実践的な研修を行いマニュアルの確認や対応のシミュレーションを確認し、緊急時の動線を再点検を図る。
各種研修会、講習会等に参加し、その情報を園内で共有できたか	
感染症やアレルギー等安全に対する研修を重ね、職員の理解を深めるとともに、マニュアルを作成し、共通実践している	
園目標達成に向け、課題と思われる点を見出し、具体的な手立てを設定し、計画的に園内研修を進められたか	・毎月1回各クラスの園内公開保育を行い、午睡の時間に園児の姿の読み取りを行った。園児の姿から環境構成の見直しについて話し合いをし、職員同士で共通理解を深めた。その後各クラスで、午後の研修に参加できなかった職員に話し合いの内容を伝え、次回の園内公開保育につながるような仕組みづくり
研修結果を適切に評価し、研修の進め方に対する改善を図ったか	
各クラスで保育を公開し、互いに参観・協議することで、保育の理解に努め、保育力向上を目指している	
行事の種類、内容、実施回数は適当か	・行事の種類や回数が子どもの発達段階や生活リズムに照らして適当であったか検証し、行事のねらいを日々の活動の延長線上で捉えなおす機会となった。 ・行事のための練習にならないよう、子どもの興味から発展する行事の在り方をさらに追及する
行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか	
保護者の願いを取り入れているか	・保護者アンケートを実施し、回収後統計をとりまとめて結果を考察し、園の考えを示し、保護者の理解を得る。また、保護者懇談、保育参観、行事参加のなかで広く意見を伺う。

本荘中央こども園施設関係者評価 評価委員長 坂崎隆浩 令和8年3月3日

令和8年3月2日、令和7年度の本荘中央こども園施設関係者評価が開催された。

この評価は小学校以降の学校評価に値するものである。評価にあたっては第1回では事業計画が説明なされ、今回の第2回では私も含めて6人の関係者(保育関係者2 地域関係者1 保護者3)によって行われた。(欠席の1名は後程評価表提出)

評価にあたっては、斎藤副園長の進行により、藤井園長の挨拶後令和7年度事業報告(阿部主幹保育教諭)、自己評価の説明を終えた後、各種運営に関わること、また園児の指導計画、安全に関わることなどの各種書類を評価者にご覧いただいた。その後、評価表に記入していただき、評価者から今後についての改善も含めたご意見を賜ったものを委員長として総括する。

最初に保育園時代から真摯に保育に取り組み、長年地域に対する児童福祉として多大なる貢献をしていることが評価書の全員より話があった。今回の評価においては安全に対する配慮、また避難訓練などの園生活の安心面とともに指導計画に裏打ちされた教育についても高く評価されている。(評価13項目、5段階方式で評価は良いが99%である。)

よって委員長としては改善と言うよりは、更に進めていただくという付加に近く、その点を2点述べる。

1点目はこども園開設1年目であり、十分に行われていると思うが保育所からこども園に変更した内容の理解には更なる勉強の機会を図られたい。2点目は研修後のフィードバックについてである。現状では研修に参加するだけでも大変ではあるが、その研鑽をどう職員全体に周知させるかは課題である。例えば特に命に関わるような重要なものについてはその機会を作りたい。

最後に私たちにとって本荘中央こども園は、日本として将来においても地域で存続する良質なモデル園である。モデル園であり続けるための努力は如何ばかりかと考えるが、その平素の努力を惜しまず、ご活躍することを心よりご祈念するものである。